

お知らせ：次回発信日は**1月16日**週報(予定)

Jミルクが**2025年9月30日に公表**した「需給見通し(※2025年7月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

## 【11月の統計実績】

### ● 生乳生産量

全国が、前年同月比▲0.5%(日均量、以下同)となり、2カ月連続で前年水準を下回った。地域別では、北海道が▲0.3%と全国同様に2カ月連続で前年水準を下回り、都府県は▲0.7%と3カ月連続で前年水準を下回った。指定団体受託乳量(速報)は、北海道(ホクレン)が12月上旬に5旬ぶりに前年水準を上回り、12月下旬まで前年超えが続いている。都府県では、10月上旬から12月中旬まで8旬連続で前年水準を下回っている。

### ● 牛乳等生産量

牛乳の生産量は4カ月連続で前年水準を下回り、前年同月比は▲3.0%と飲用等向け乳価改定が行われた8月以降、最も大きい減少率となった。牛乳以外の品目も消費は伸び悩み、成分調整牛乳は66カ月連続、加工乳は4カ月連続、乳飲料も4カ月連続で前年水準を下回った。この結果、牛乳類全体としては4カ月連続で前年割れとなった。発酵乳については、2カ月連続で前年割れとなり、減少幅が拡大した。この結果、生乳の飲用等向け処理量は、前年同月比▲3.2%と4カ月連続で前年水準を下回った一方、乳製品向けは+2.9%と16カ月連続で前年水準を上回った。

### ● 乳製品需給

脱脂粉乳は、生産量が11.8千ト、推定出回り量は10.1千トと需要量が供給量を下回った結果、在庫量は前月から1.9千ト増加し、月末在庫量は66.1千ト(前年同月比+38.8%)と12カ月連続で前年水準を上回った。在庫量が60千トを超えるのは、7カ月連続。バターの生産量は5.5千ト、推定出回り量が7.5千ト、輸入売渡数量が1.1千トとなり、需要量が供給量を上回った結果、在庫量は0.9千ト減少して30.0千トとなった。在庫量は15カ月連続で前年水準を上回っている。

## 【12月および12/22週の販売動向データ】

● 12月の牛乳類の販売個数は、4品目すべてで前年水準を下回り、加工乳を除く3品目は前月から減少幅が拡大した。販売業態別に見ると、すべての業態で平均販売単価が前月から上昇した。ドラッグストアの販売個数は8月、9月と2カ月連続で前年水準を上回っていたが、10月以降は前年割れに転じ減少幅は拡大傾向で推移している。この結果、スーパーマーケットの販売シェアは前月から拡大した。直近週(12/22週)では、牛乳類トータルの販売個数が11週連続で前年割れとなり、前週から減少幅が拡大した。

● 発酵乳の12/22週の合計販売数量は、個数ベース・容量ベースともに前年水準を下回った。内訳を見ると、ドリンクタイプが4週連続、個食タイプは40週連続で前年割れとなったものの、大容量タイプは2週連続で前年水準を上回った。

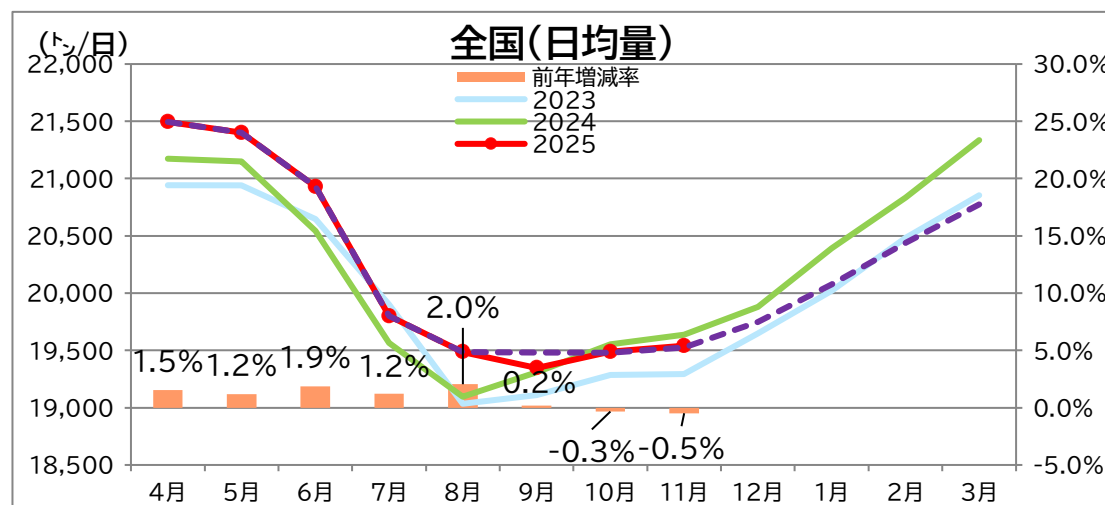
● 学校給食用牛乳が停止し、一部量販店が休業した年末年始は、昨年度以上に大幅な需給緩和に見舞われたが、全国協調のもと円滑な生乳処理に取り組んだ結果、現時点で大きな混乱は確認されていない。

## 【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

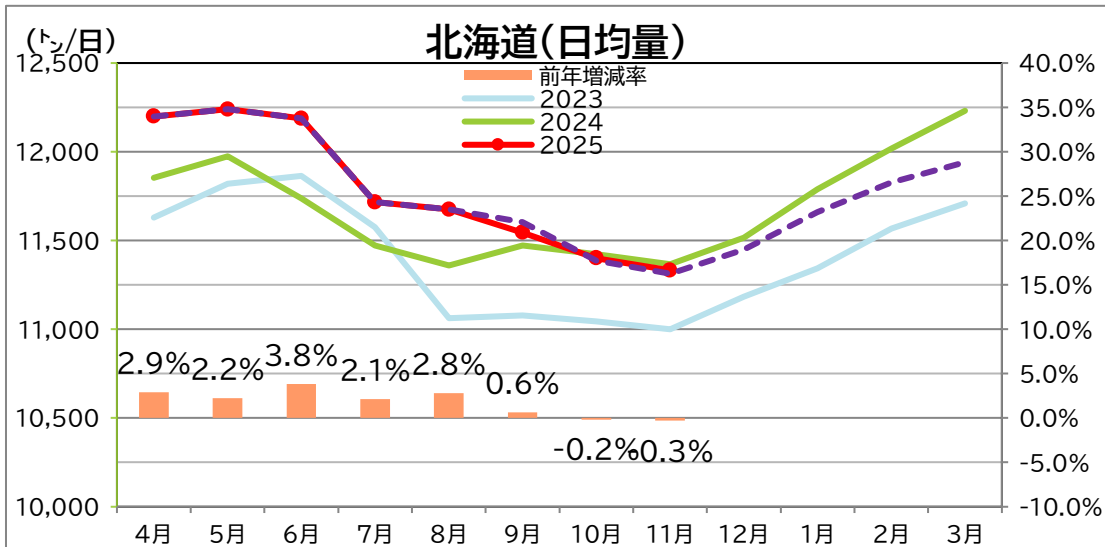
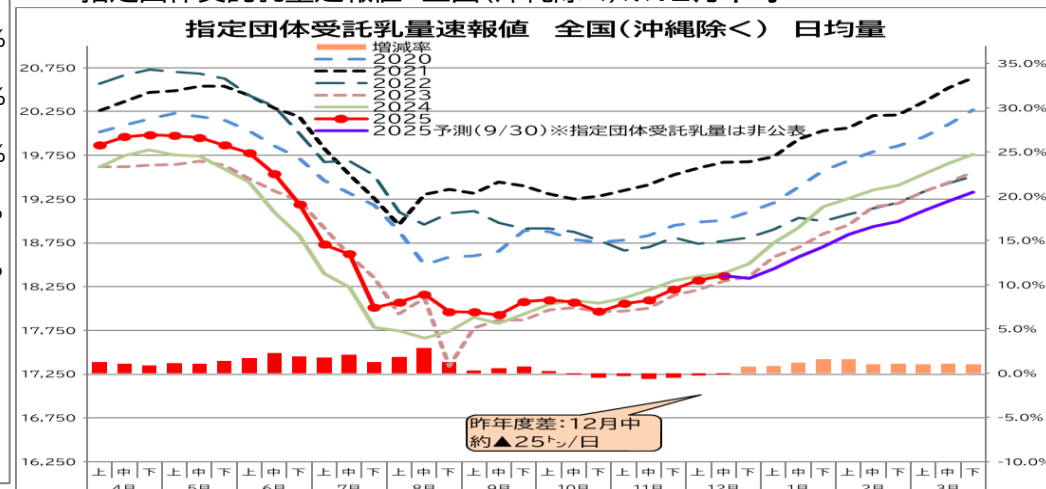
(1)11月の生乳生産量は、全国586.2千ト(前年同月比99.5%)、北海道340.0千ト(同99.7%)、都府県246.2千ト(同99.3%)。

(2)9月30日に公表したJミルク予測値(全国585.8千ト、北海道339.4千ト、都府県246.4千ト)との比較は北海道はやや上振れ、都府県はやや下振れした。

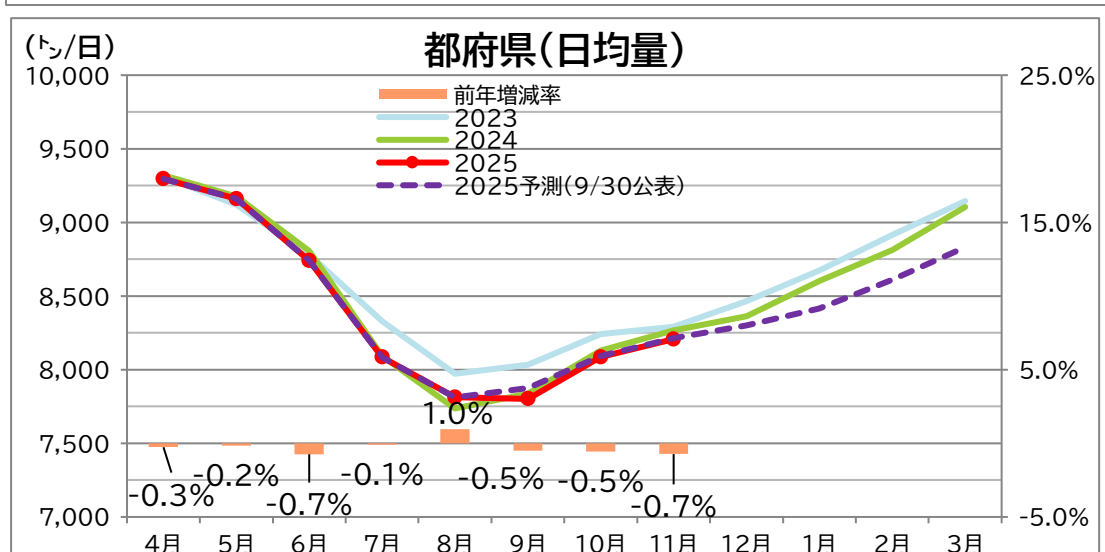
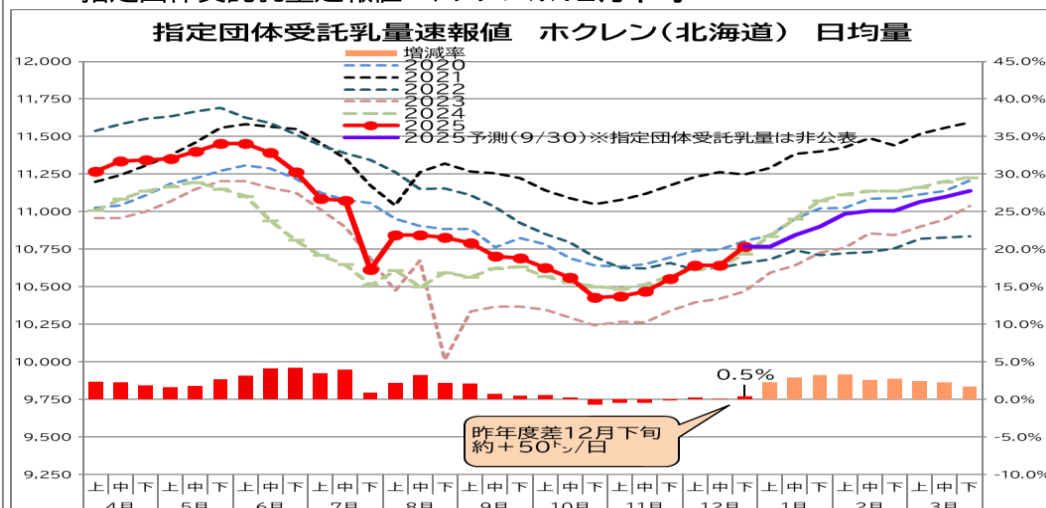
(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が12月中旬(最新、以下同)で同99.9%、都府県(沖縄除く)が同99.6%、北海道は12月下旬で同100.5%となった。



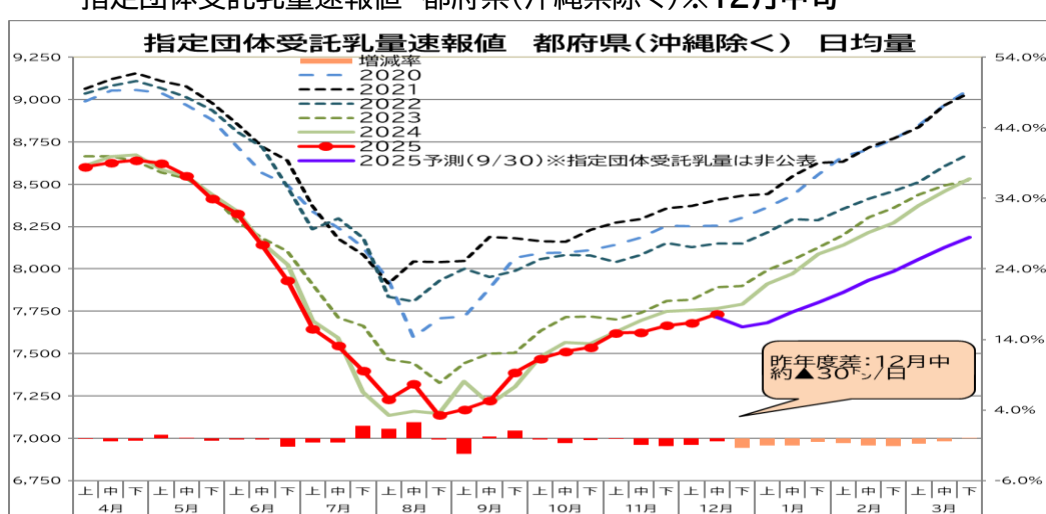
## 指定団体受託乳量速報値 全国(沖縄除く)※12月中旬



## 指定団体受託乳量速報値 ホクレン※12月下旬



## 指定団体受託乳量速報値 都府県(沖縄除く)※12月中旬

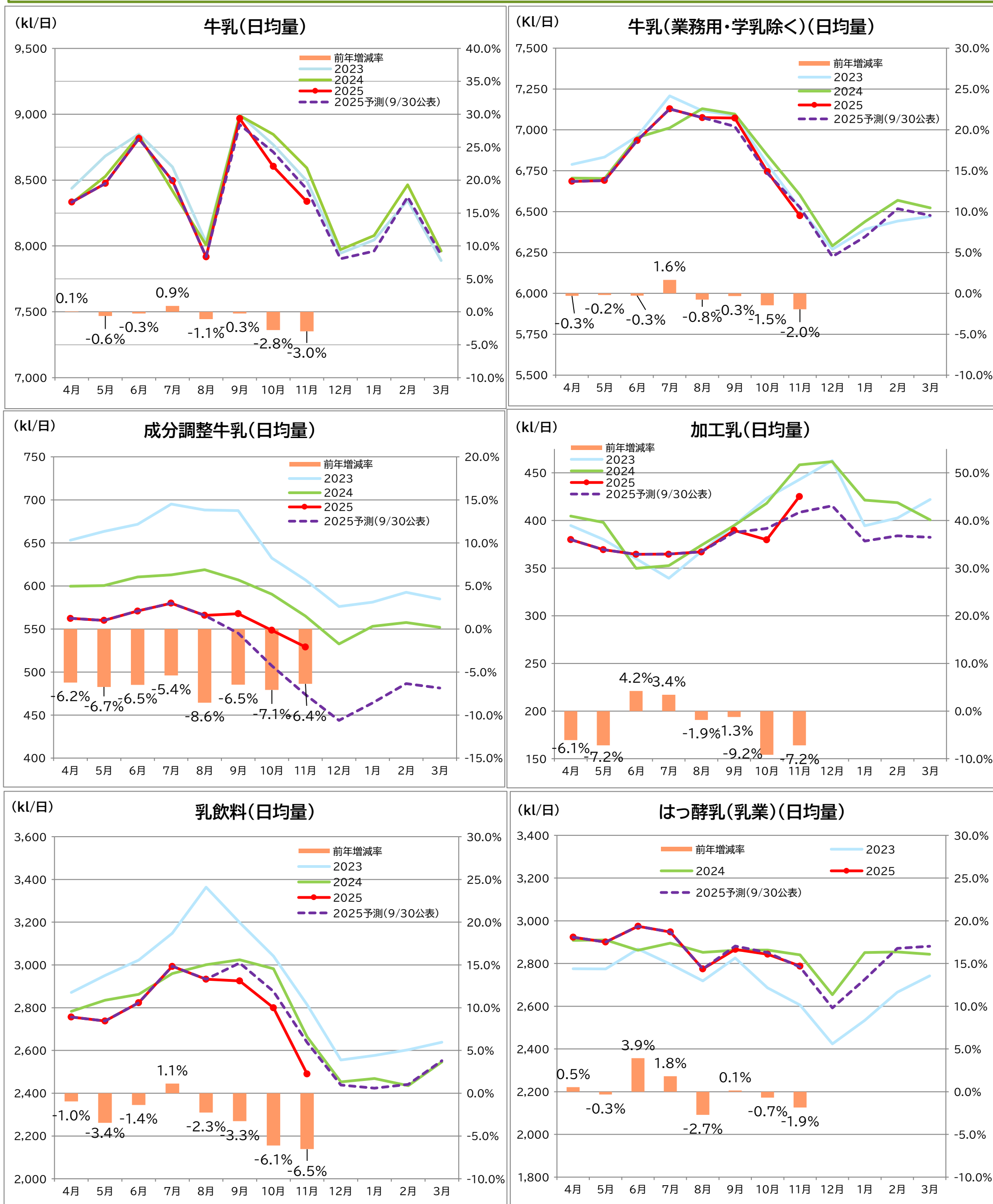


## 【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の牛乳等生産量は、牛乳250.1千kl(前年同月比97.0%)、成分調整牛乳15.9千kl(同93.6%)、加工乳12.8千kl(同92.8%)、乳飲料74.7千kl(同93.5%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、353.5千kl(同96.0%)となり、4カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同98.0%、「業務用」は同97.4%、「学乳」は91.0%。

(3)はっ酵乳(乳業)は83.7千kl(同98.1%)、はっ酵乳(非乳業:10月実績)は95.9%となった。



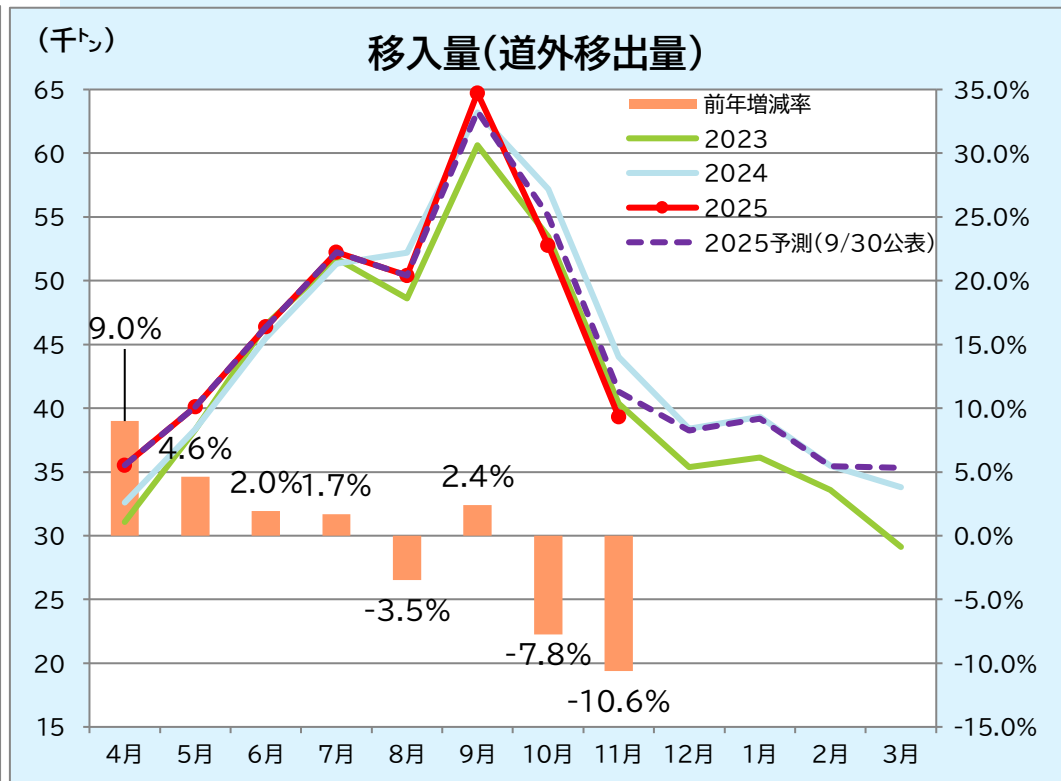
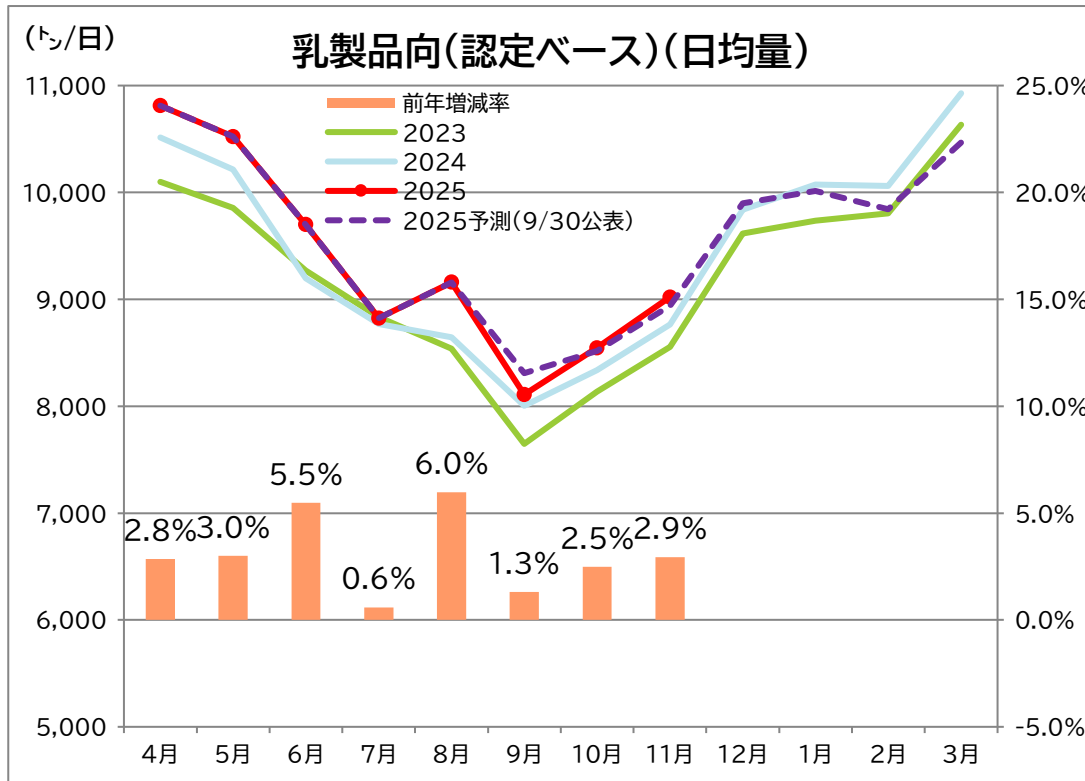
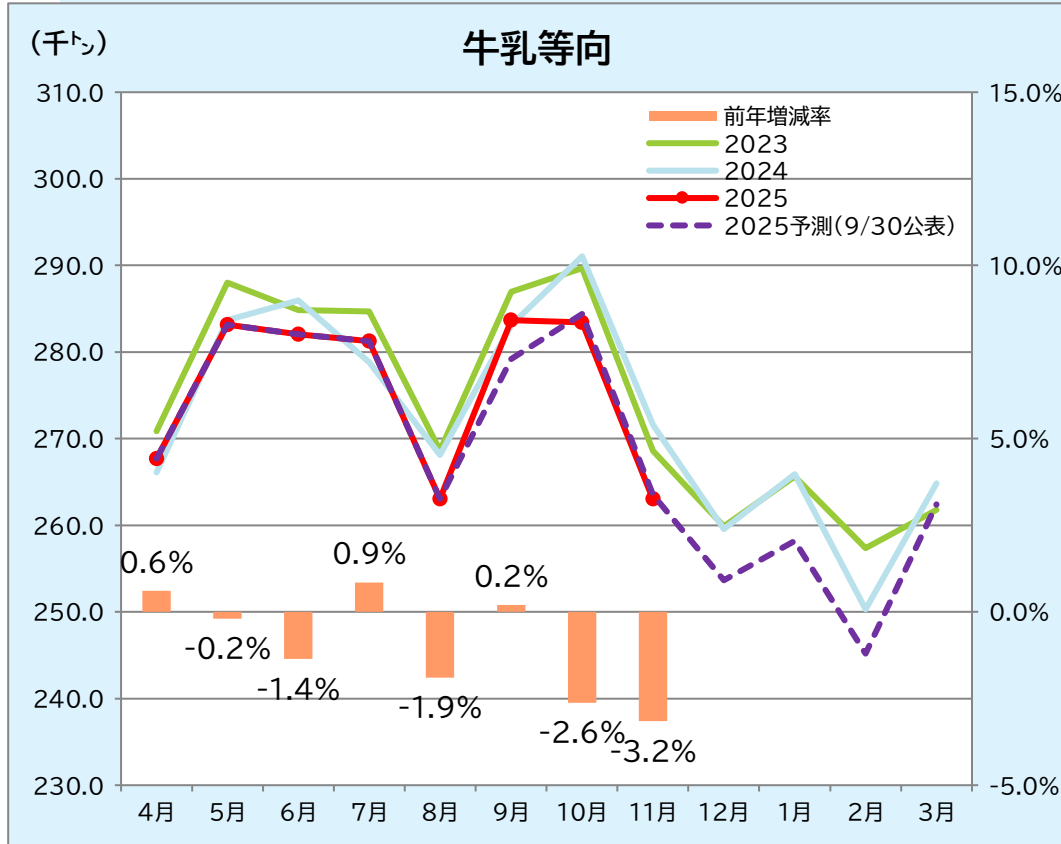
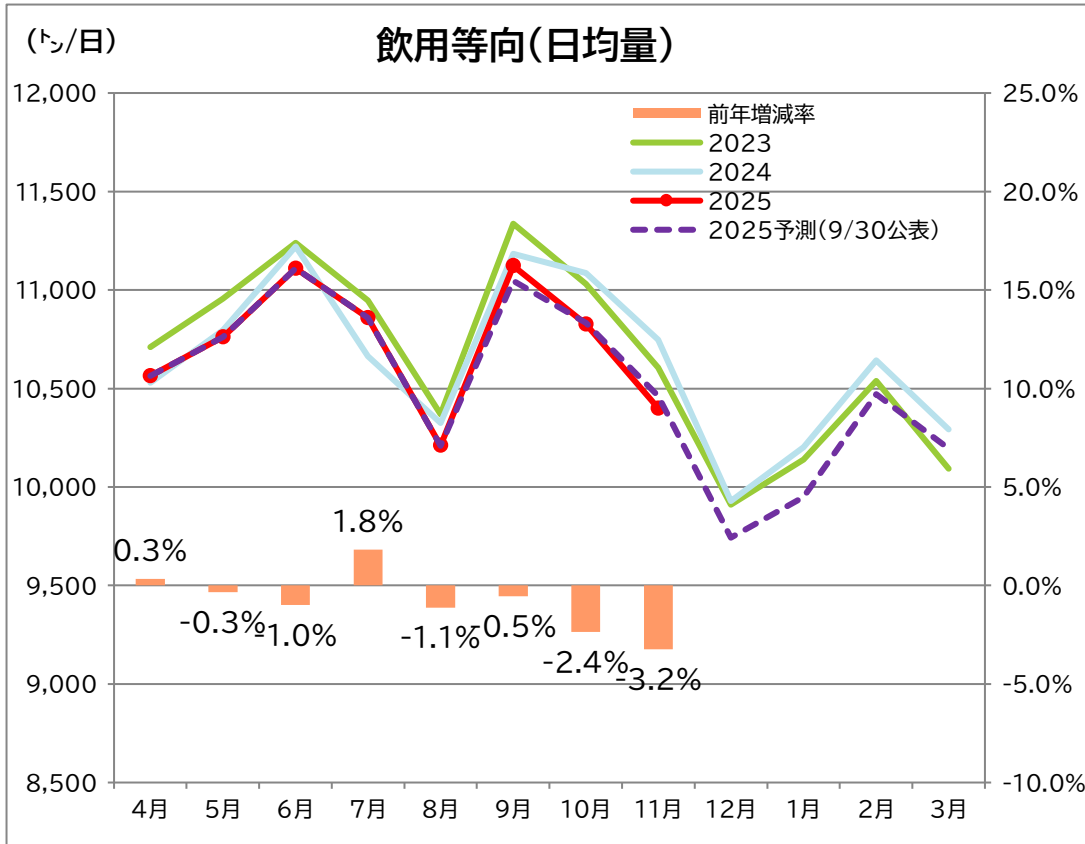
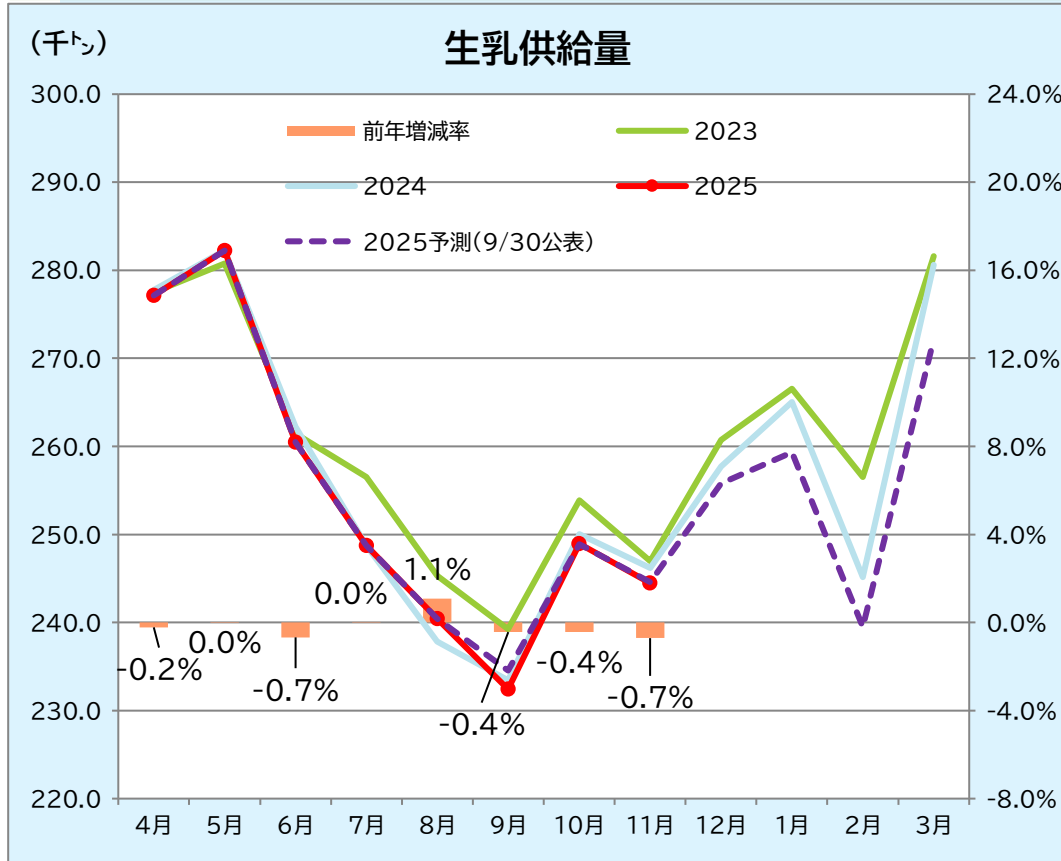
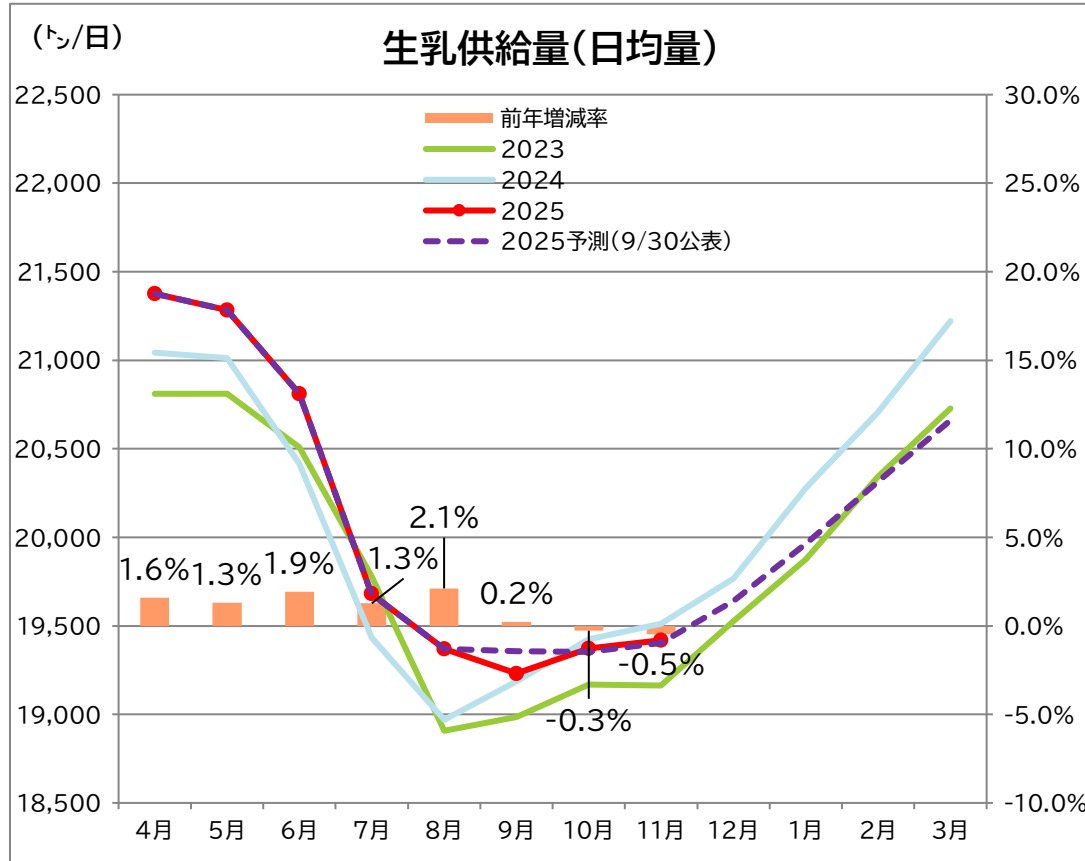


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の生乳供給量は582.6㍑(前年同月比99.5%)、飲用等向312.0千㍑(同96.8%)、乳製品向(認定ベース)270.6千㍑(同102.9%)。  
(2)飲用等向が4か月連続で前年を下回り、生乳供給量が2カ月連続で前年を下回った結果、乳製品向は16か月連続で前年を上回った。  
(3)9月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:582.1千㍑)はやや上振れ、飲用等向(予測値:313.8千㍑)はやや下振れ、乳製品向(予測値:268.2千㍑)は上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)11月は、生乳供給量244.5千㍑(前年同月比99.3%)、牛乳等向263.0千㍑(同96.8%)。  
(2)北海道からの移入量については39.3千㍑(同89.4%)と前年を下回った。  
(3)9月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:244.6千㍑)は予測並み、牛乳等向(予測値:263.5千㍑)はやや下振れ、移入量(予測値:41.3千㍑)も下振れとなった。



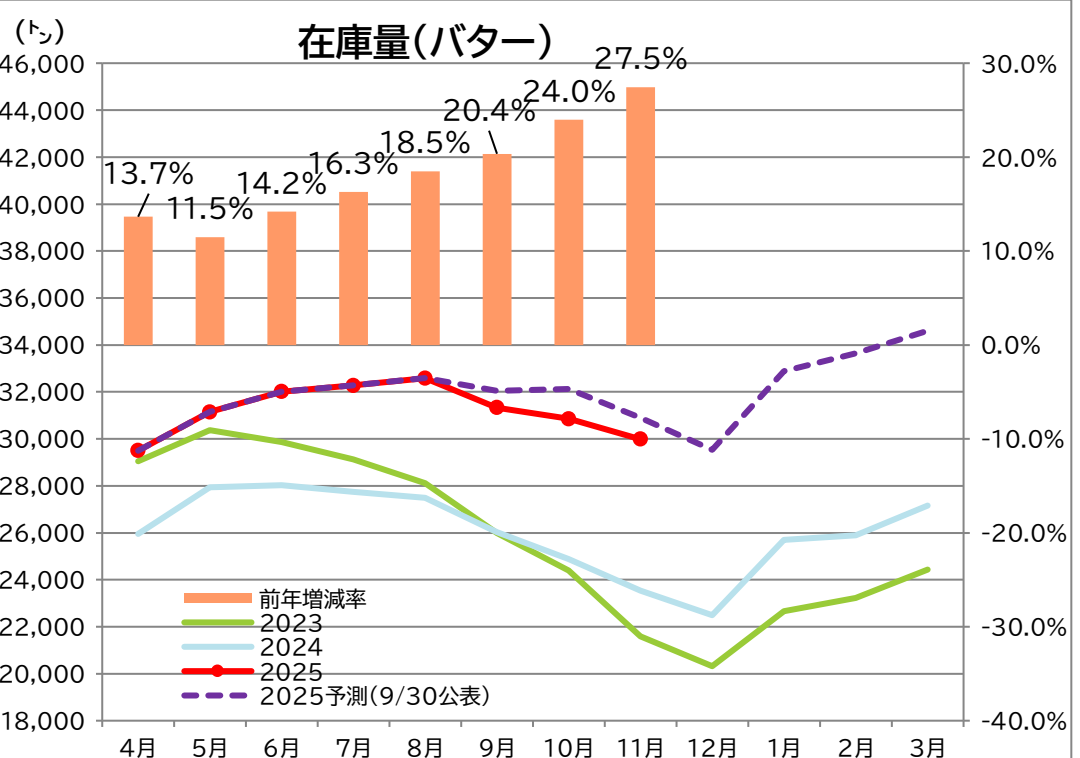
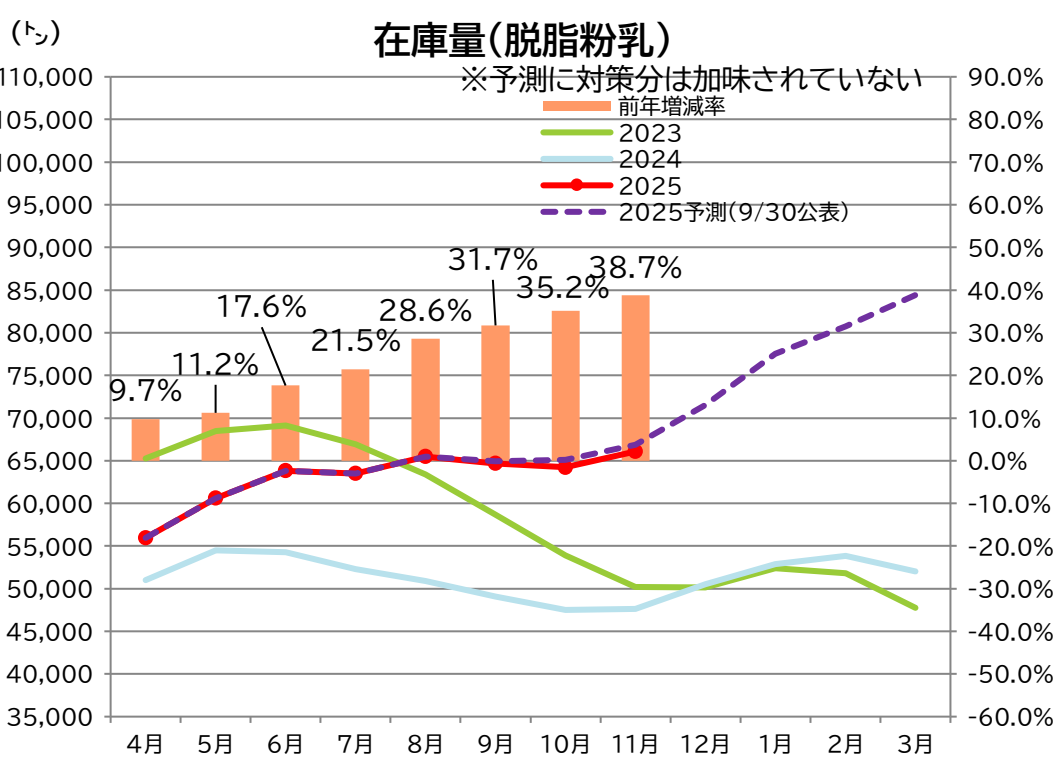
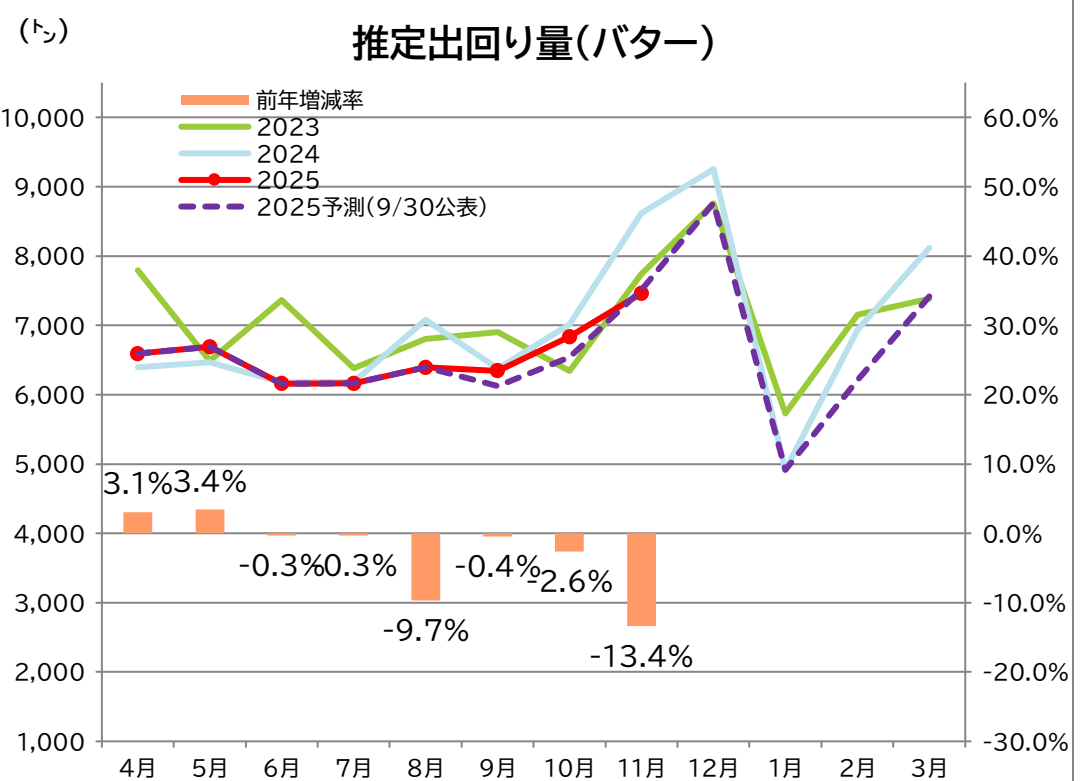
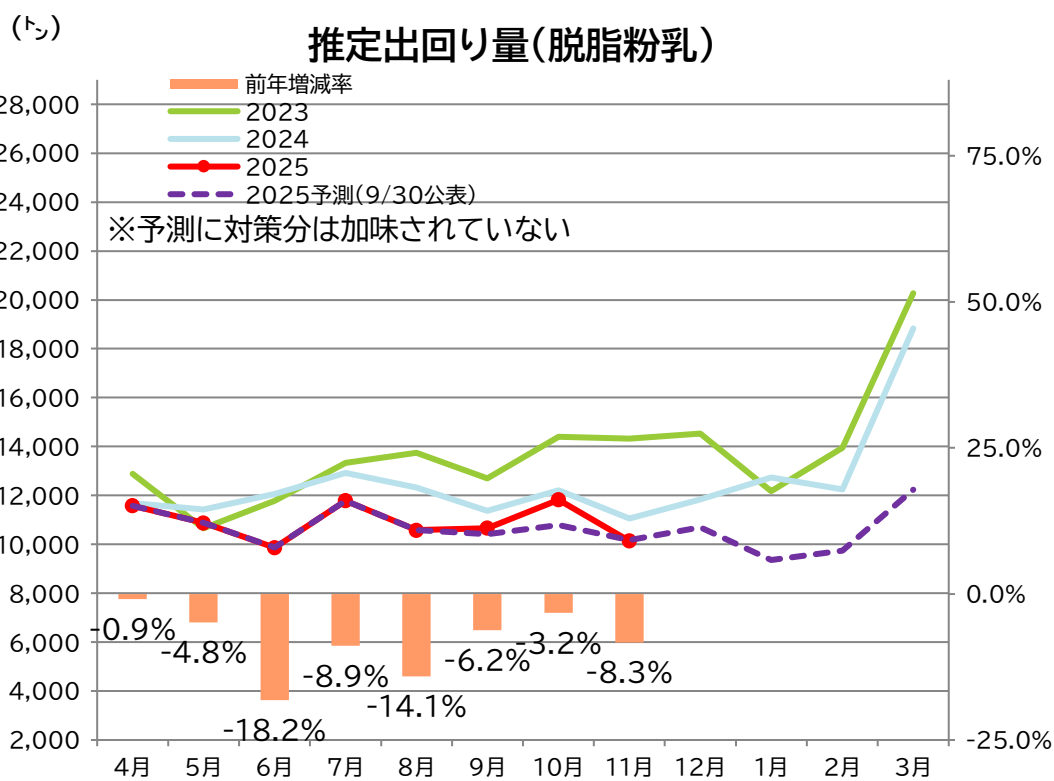
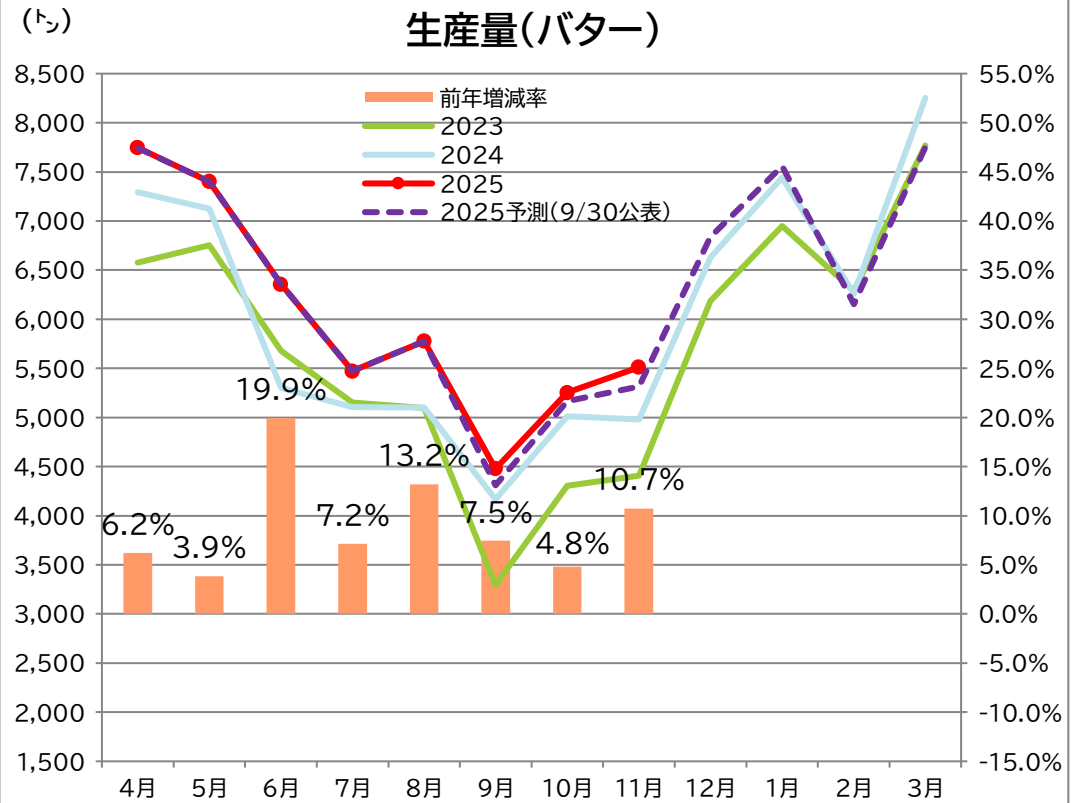
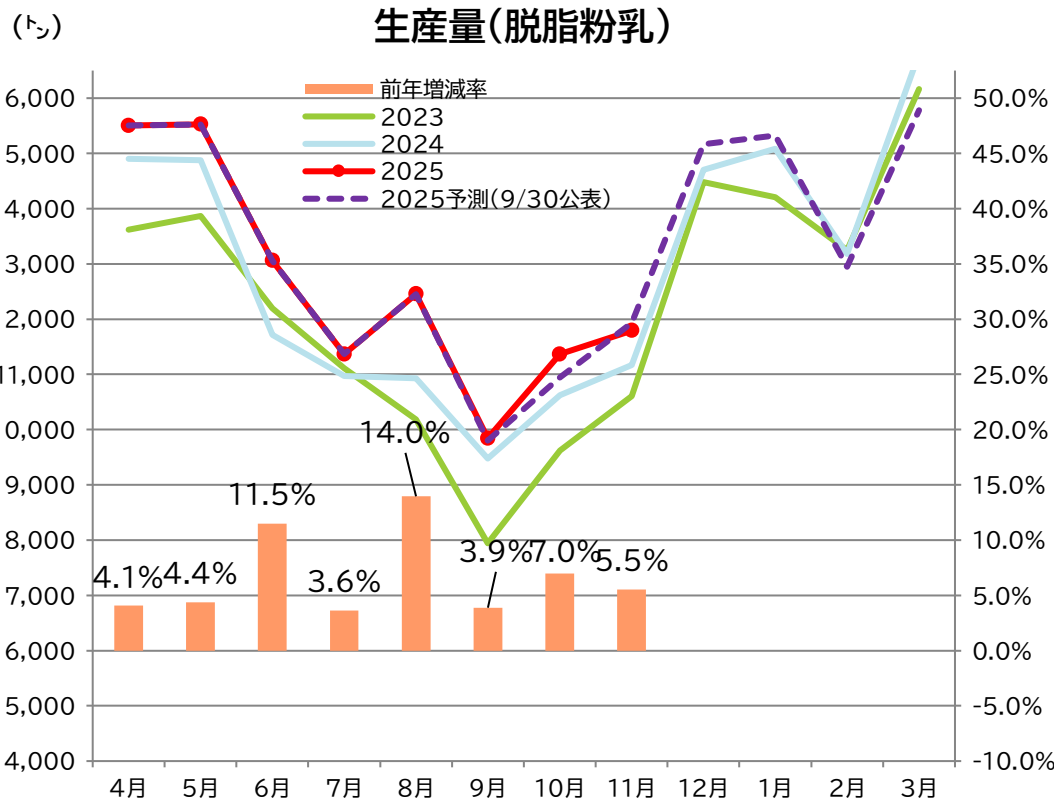
## 【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について11月の生産量は11.8千ト(前年同月105.5%)、推定出回り量は10.1千ト(同91.7%)となった。出回り量が生産量を下回り在庫量は前月から1.9千ト程度増加し、66.1千ト(同138.8%)となった。在庫量は昨年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、12カ月連続で前年水準超えで推移している。在庫量が6万トを上回るのは、7カ月連続となる。

※なお、推定出回り量の実績について、前年度の実績から在庫対策を差し引いた数量との比較は103.8%。

(2)バターについて、11月の生産量は5.5千ト(同110.7%)、推定出回り量は7.5千ト(同86.6%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.1千ト)も考慮すると在庫量は前月から約0.9千ト減少し30.0千ト(同127.5%)となった。在庫量は15カ月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績  
(1)12月の動向(表①参照)  
・販売個数は、牛乳:前年同月比98.5%、成分調整牛乳:同92.0%、加工乳:同95.3%、乳飲料:同92.5%。牛乳類全体:同97.1%  
【参考】2023年12月比…牛乳:98.1%、成分調整牛乳:88.3%、加工乳:92.5%、乳飲料:85.9%(牛乳類トータル:95.5%)  
(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)  
・直近(12/22)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.4%、成分調整牛乳:同88.7%、加工乳:同97.7%、乳飲料:同92.2%。牛乳類トータルでは同96.9%  
出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】 単位:千個、円

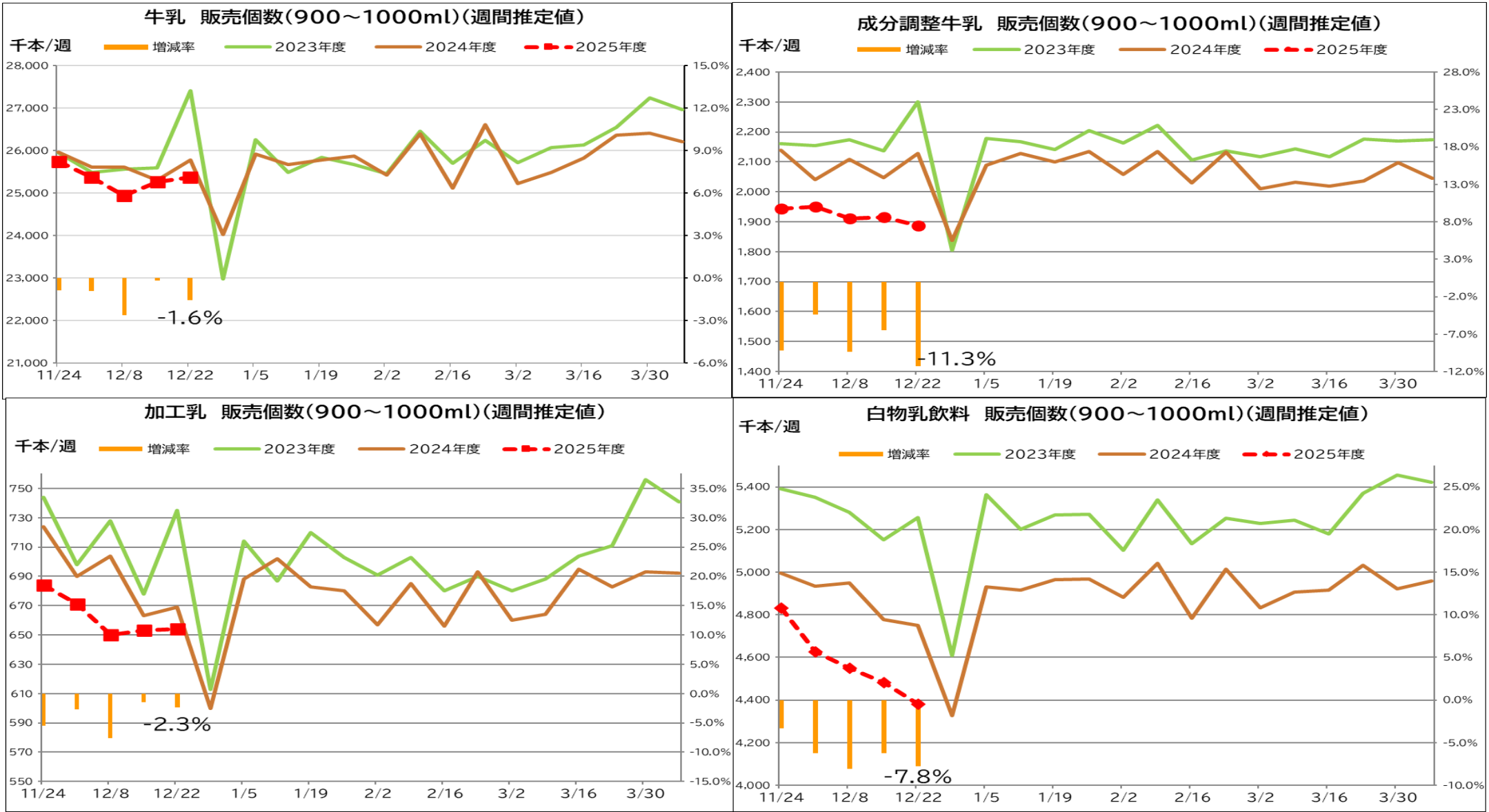
品目	区分	2025/7-	2025/8-	2025/9-	2025/10-	2025/11-	2025/12-	2025/12- 2022/10価格差	2025/12- 2023/3価格差	2025/12- 2023/7価格差	2025/12- 2025/7価格差
トータル	販売個数	167,382	172,469	161,532	155,995	144,208	145,499	43.2	28.1	26.3	10.0
	販売個数前年比	99.7	98.4	97.3	96.8	98.0	97.7				
	販売単価	216.3	225.3	226.0	226.0	225.6	226.3				
牛乳	販売個数	129,515	134,237	124,875	120,635	111,759	113,812	44.8	28.5	27.7	9.9
	販売個数前年比	100.0	99.2	98.0	97.6	99.7	98.5				
	販売単価	225.1	234.2	235.3	235.3	234.8	235.0				
成分調整牛乳	販売個数	9,676	9,690	9,194	9,035	8,527	8,607	42.9	27.3	23.7	10.0
	販売個数前年比	94.3	92.4	91.6	89.2	92.2	92.0				
	販売単価	206.1	217.3	218.2	216.9	216.2	216.1				
加工乳	販売個数	3,335	3,333	3,215	3,127	2,975	2,951	37.2	27.5	17.3	5.8
	販売個数前年比	91.2	90.5	91.9	92.7	95.2	95.3				
	販売単価	223.3	233.4	233.5	231.5	228.0	229.1				
乳飲料	販売個数	24,855	25,209	24,249	23,197	20,948	20,128	31.3	20.7	17.0	7.2
	販売個数前年比	97.6	97.8	96.7	96.7	95.4	92.5				
	販売単価	173.6	179.8	180.3	180.8	179.9	180.8				

速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	11.3-	11.10-	11.17-	11.24-	12.01-	12.08-	12.15-	12.22-	25.12.22- 22.10.24 価格差	25.12.22- 23.3.20 価格差	25.12.22- 23.7.24 価格差	25.12.22- 25.7.21 価格差
トータル	販売個数	33,947	33,767	32,336	33,196	32,620	32,046	32,310	32,297	44.0	29.1	26.7	10.7
	販売個数前年比	96.2	97.4	96.1	98.1	98.0	96.0	98.5	96.9				
	販売単価	225.9	225.4	226.1	225.7	225.3	225.6	225.8	227.2				
牛乳	販売個数	26,316	26,109	25,079	25,737	25,372	24,936	25,260	25,378	45.4	29.1	27.9	10.4
	販売個数前年比	97.3	98.2	97.2	99.1	99.1	97.4	99.8	98.4				
	販売単価	235.1	234.6	235.3	234.9	234.3	234.7	234.4	235.7				
成分調整牛乳	販売個数	2,008	2,004	1,900	1,943	1,951	1,911	1,915	1,887	44.1	29.3	24.4	11.2
	販売個数前年比	90.5	92.9	89.9	90.8	95.6	90.7	93.5	88.7				
	販売単価	216.7	216.0	217.6	216.4	214.5	215.4	216.1	217.4				
加工乳	販売個数	709	700	662	684	671	650	653	654	36.3	26.4	16.4	6.4
	販売個数前年比	97.3	93.1	94.6	94.5	97.3	92.4	98.5	97.7				
	販売単価	227.9	227.6	228.8	227.8	227.8	228.7	228.9	229.4				
乳飲料	販売個数	4,914	4,953	4,695	4,831	4,626	4,548	4,481	4,379	31.8	22.0	17.3	8.3
	販売個数前年比	92.5	95.6	93.1	96.7	93.8	91.9	93.8	92.2				
	販売単価	180.2	180.0	179.9	179.8	180.4	180.1	180.9	181.5				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】





【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(12/22週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90～250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70～130ml):同90%以上、大容量タイプ (350～500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回った。(3品目合計販売個数は前年同期比90%以上、合計販売容量は同90%以上)。

(2)販売個数について、前週(12/15週)との比較では、3品目いずれも減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	11.3-	11.10-	11.17-	11.24-	12.1-	12.8-	12.15-	12.22-
ドリンクタイプ	↘	→	→	→	↘	↘	↘	↓
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	↘	→	→	↘	↗	→

↘: 前年比90%未満

↘: 前年比90%以上100%未満

→: 前年比100%以上105%未満

↗: 前年比105%以上110%未満

↗: 前年比110%以上120%未満

↗: 前年比120%以上

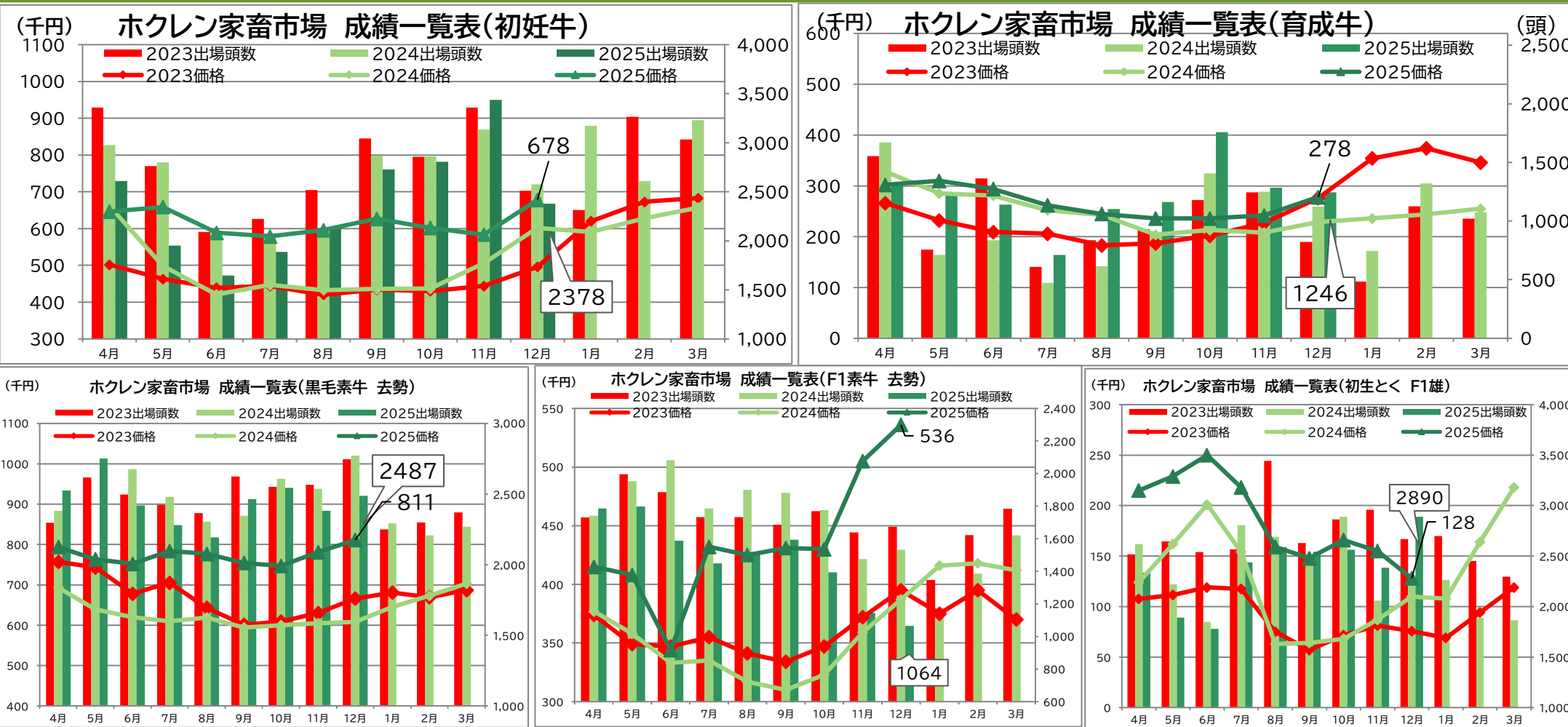
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)12月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は678千円(前年同期比112.6%)、育成牛価格は278千円(同121.4%)、和牛素牛(去勢)価格811千円(同133.4%)、F1素牛(去勢)価格は536千円(同138.5%)。初妊牛は2か月ぶりに60万円台に上昇、育成牛は7カ連続で20万円台。ホル初生(雄)価格は64千円(同300.6%)と、5か月連続で前年比2倍の水準を上回った(グラフ無し)。

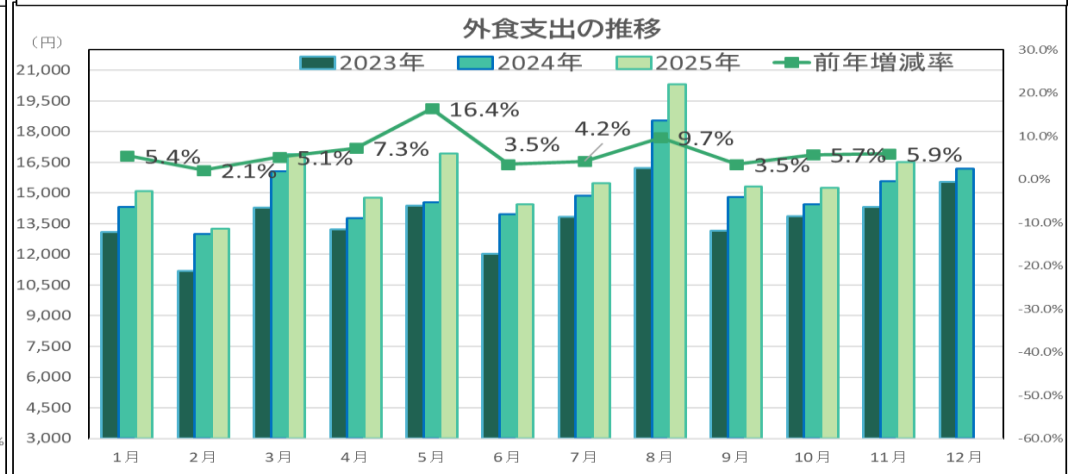
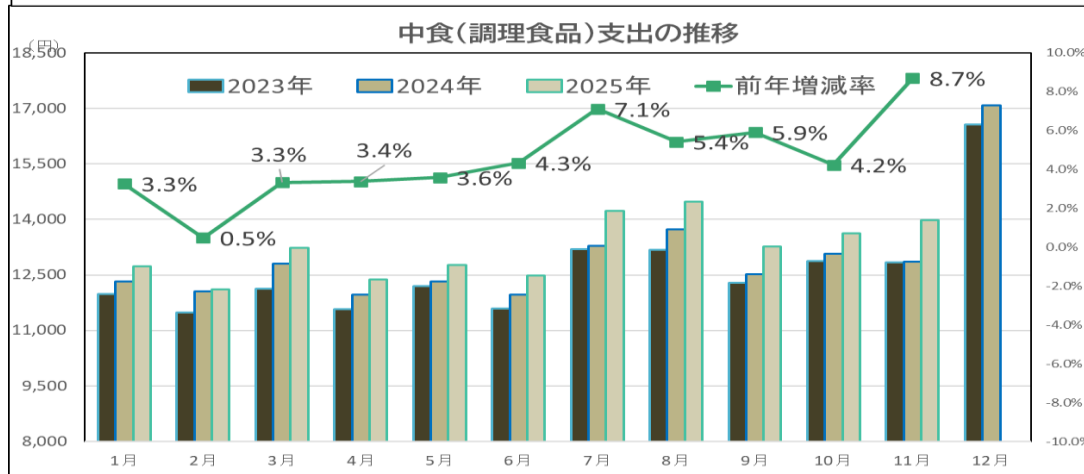
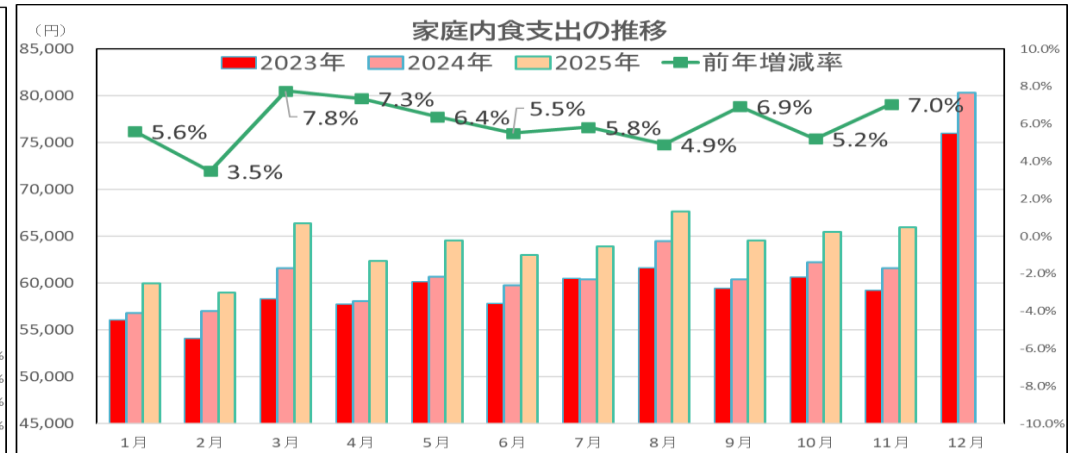
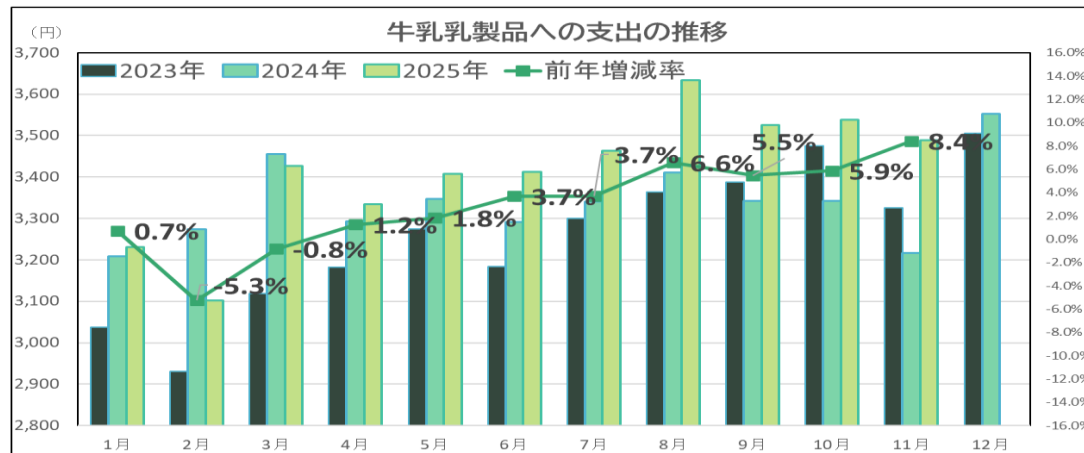
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同92.3%、育成牛:同110.9%、F1初生(雄):同125.4%、和牛素牛(去勢):同89.7%、F1素牛(去勢):同69.5%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

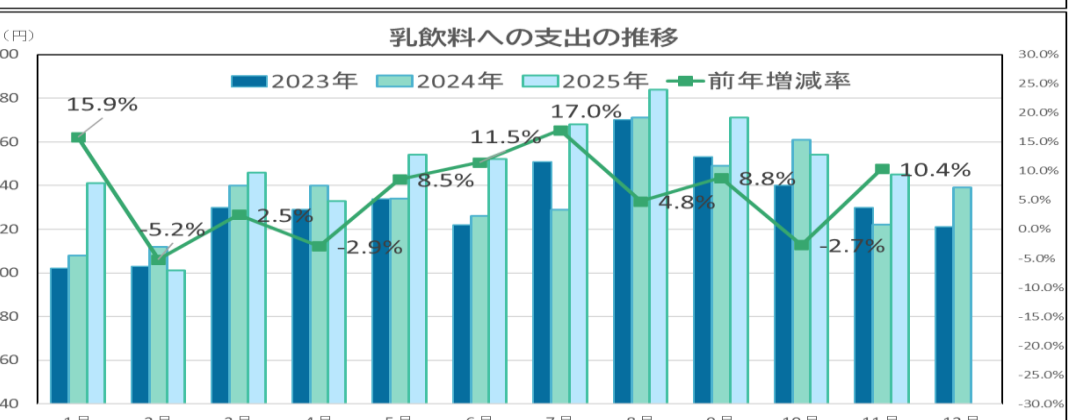
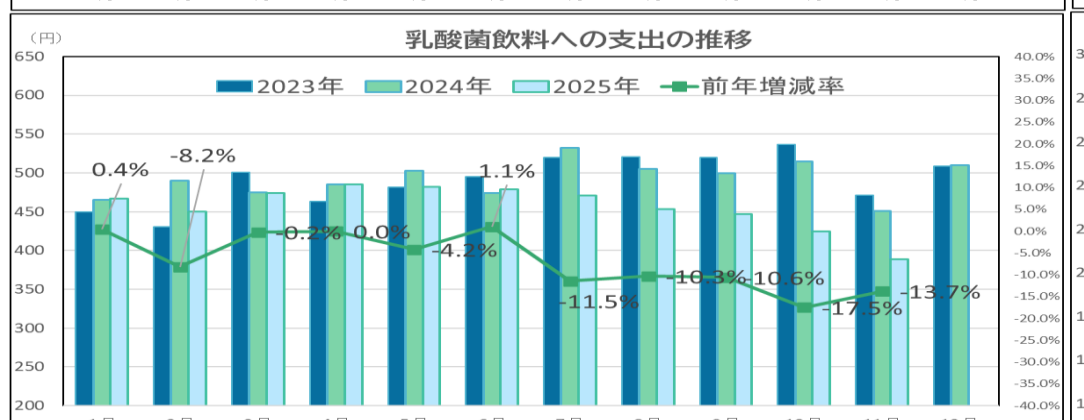
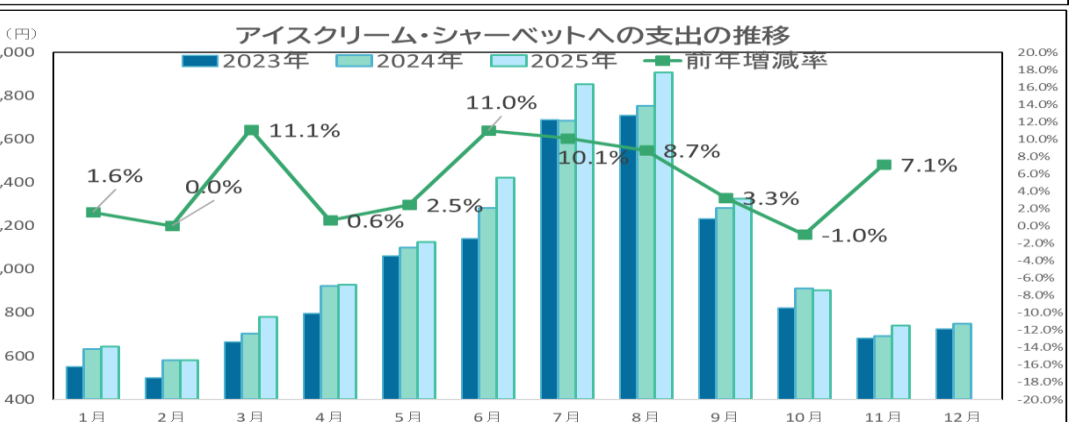
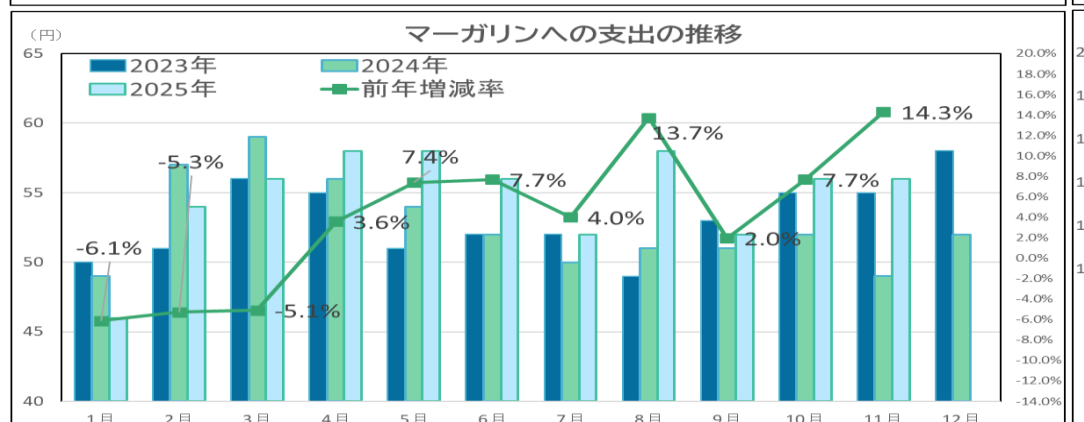
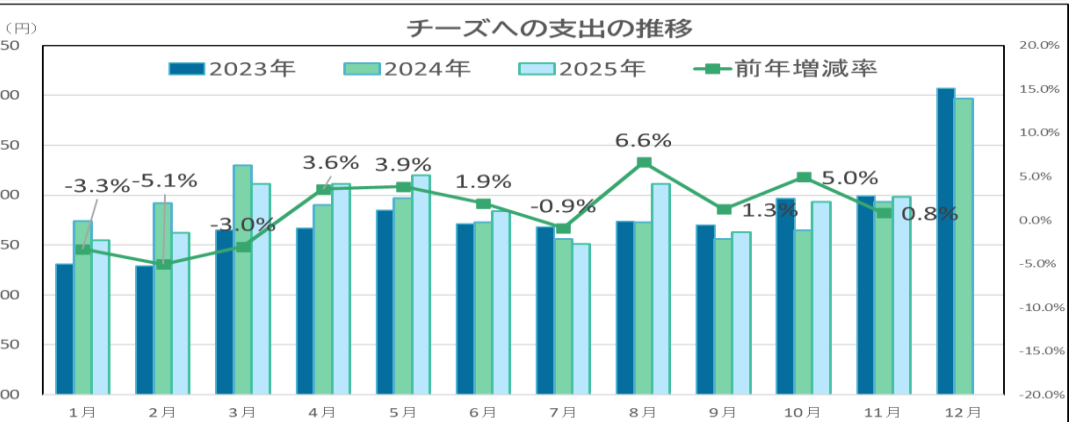
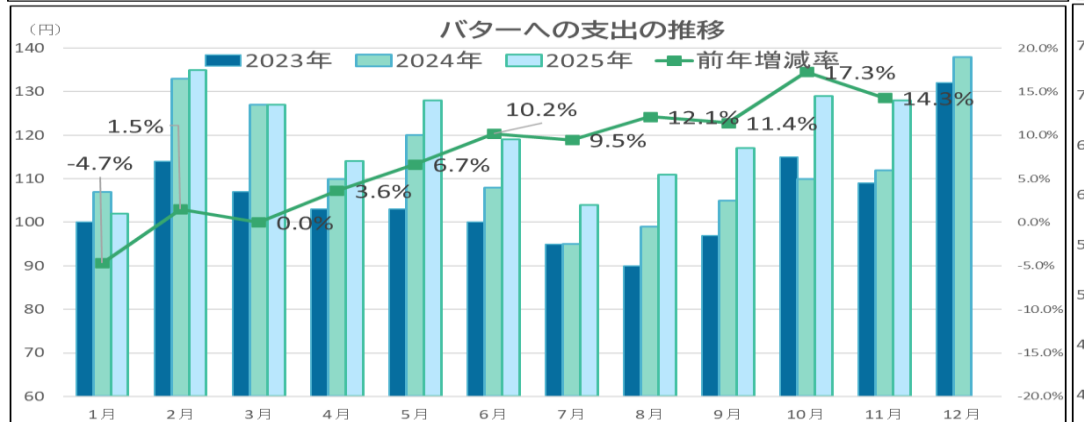
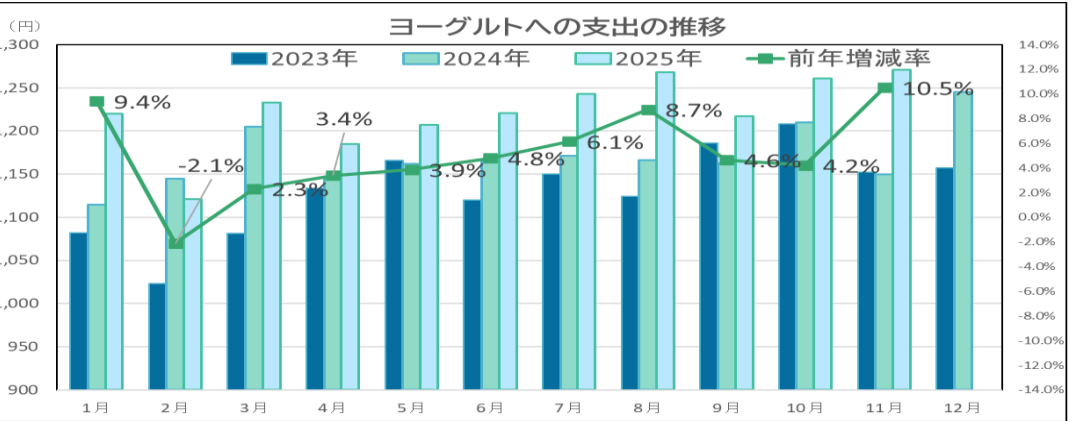
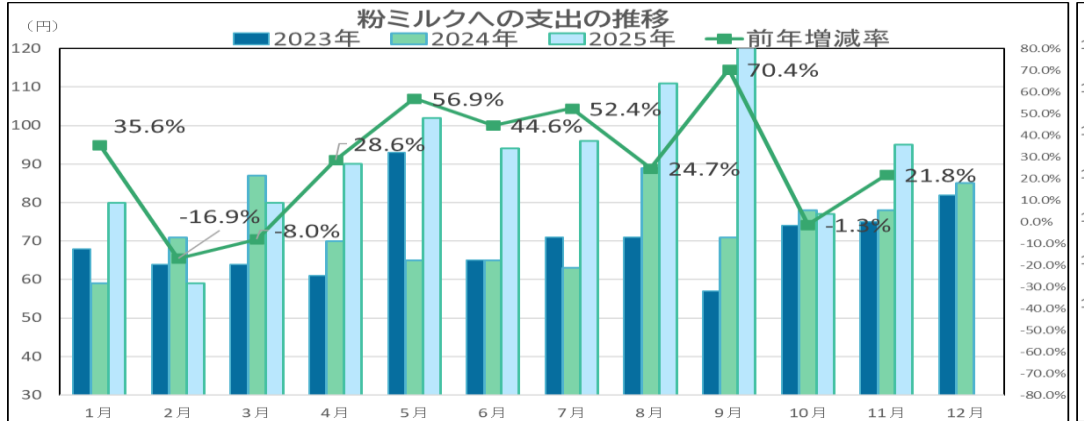


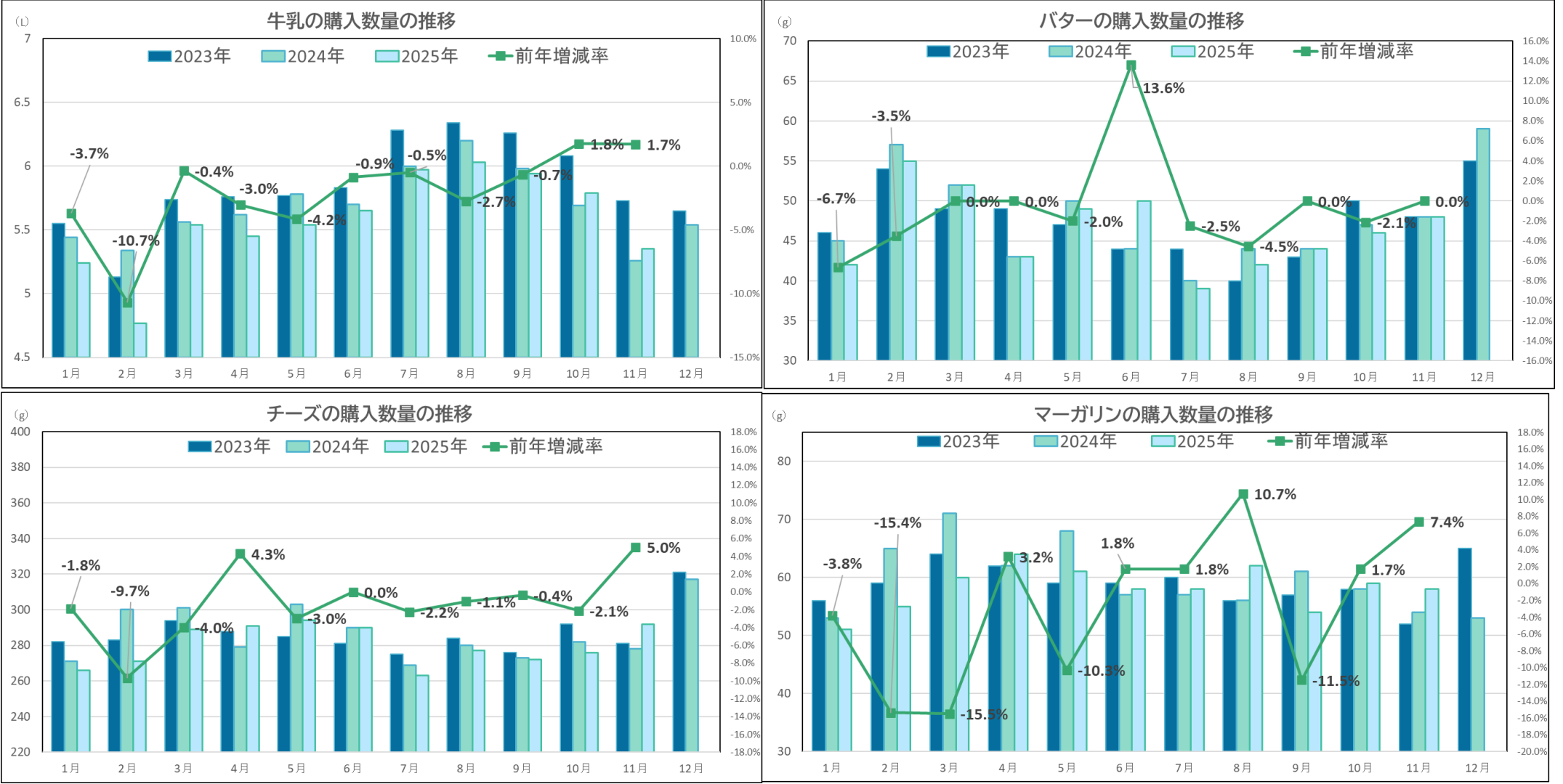
【家計支出の動向】

- (1)11月の支出額前年比について、外食105.9%、中食104.2%、内食108.7%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は107.1%となった。
- (2)牛乳乳製品の支出額も前年比108.4%(うち牛乳108.5%、乳製品108.4%)と7カ月連続で前年を上回った。
- (3)なお、購入量は、牛乳101.7%(1世帯当たり5.4㍑)と2か月連続で前年超え。バターは2カ月ぶりに前年超え、チーズは5カ月ぶりに前年超えとなった。
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)

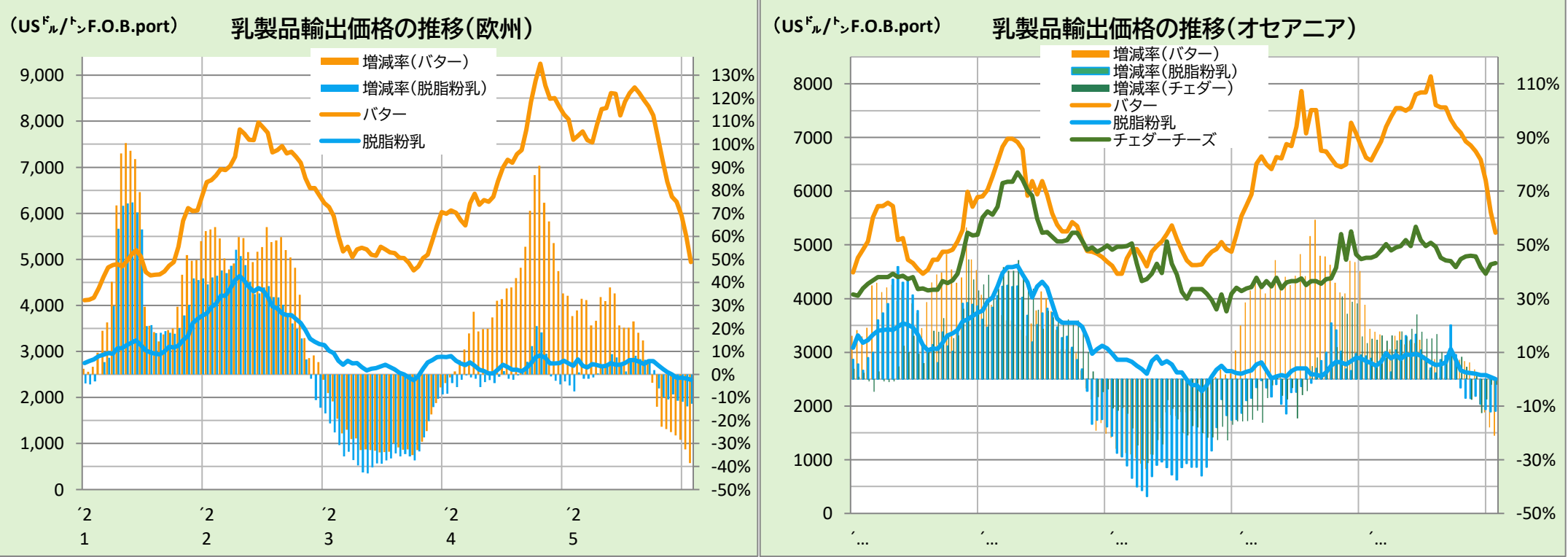


【参考:その他品目支出の動向】





【乳製品輸出価格の動向】  
(1)直近の乳製品国際相場について(12月下旬)  
・欧州:脱脂粉乳2,388ドル/トン、バター4,938ドル/トン中心。バターは減少幅の拡大が続いている。  
・オセアニア:脱脂粉乳2,500ドル/トン、バター5,225ドル/トン、チェダーチーズは4,663ドル/トン中心  
※出典:米国農務省(USDA)



※「2025年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」